

図書館だより



「ドキドキ！！Lucky Bag！！」を企画しました

令和4年度の図書館ワークスタディの企画として「ドキドキ!!Lucky Bag!!」を企画しました。

図書館の利用者を少しでも増やしたいという想いはもちろんですが、月ごとにテーマに沿った本を選書することで、利用者が今まで手に取って来なかった分野の本に興味を広げることが大きな目的でもあります。

本学の学生にアンケートを行い、その結果に基づいて選書に取り組みました。特に関心を示しているものをテーマに設定し、どのような本を借りたいのか、どのような事柄を学びたいのか、利用者に寄り沿うことで図書館を利用しやすくなるのではないかと思ったためです。毎月3つのテーマにあった本を福袋に入れ貸出しているのですが、必ず一つは＜ランダム＞として、ワークスタディがおすすめする本を入れています。どんな本が包まれているのか分からないまま借りるというドキドキ感を味わってもらおうと同時に、利用者と図書館の交流の機会を設けるためです。

本の福袋を企画として決定したとき、どのように貸出を行うのか。返却方法はどのようなかといった課題がありました。各々が意見を出し合っていきながら本の福袋を完成させることが出来ました。

図書館では他にも、ワークスタディが作る月ごとの企画展示や季節に沿った展示なども開催しています。そういったものにも目を向けて利用していただけると幸いです。企画のみならず、多種多様な蔵書があります

ので自身の学業に役立てて下さい。

今後も様々な企画を開催していきますので、その際にはぜひ図書館に足を運んでみて下さい。また、企画をきっかけとして日常的に図書館を利用するのも大歓迎ですので、図書館へのご来館お待ちしております。

※ワークスタディ：学内アルバイト制度。現在は図書館とキャリアセンターで採用している。



◀展示の様子

【図書館からのご案内】

○参考図書や館内閲覧に指定されている本は貸出ができません。

○入館する際や貸出手続きの際に学生証・利用証が必要となります。忘れずにお持ちください。

○延滞している場合には、図書の貸出はできません。また、延滞した際には、すべてを返却し終えても、延滞した日数分貸出不可となります。

※詳しくは利用案内をご確認下さい。

【発行】

國學院大學北海道短期大学部図書館

滝川市文京町3丁目1番1号

TEL 0125-23-4111 / FAX 0125-23-5590

<https://www.kokugakuin-jc.ac.jp/>



○開館時間

月一金 9:30—18:30

○休館日

土・日・祝日、大学指定の休日

※新型コロナウイルス感染症により、開館日や時間を変更する場合があります。

國學院大學北海道短期大学部は、高校生以上の地域の皆様に図書館を開放しています。利用ご希望の方は、運転免許証など、ご自身を証明できるものをお持ちのうえ、カウンターで利用登録をしてください。詳細は、図書館にお尋ね下さい。

電子書籍と紙の本

読書ということにおいては、まだまだ紙の本を読むことが一般的だと思います。片や電子書籍の市場は年々増加を続けているようです。少し古い数字ですが、2011年度に比べて2018年度は約5倍も市場が拡大しているとのこと。その理由としては、インターネットやスマートフォンの普及、時間に追われ、忙しい現代人はちょっとした時間に本を読むというような生活環境、電子書籍を利用している若年層は、スマートフォンやタブレット等の利用率が高く、他の年齢層よりも電子書籍を利用しやすい、などのことが挙げられています。

読書するのに電子書籍がいいのか、紙の本がいいのか、このことは書かれている内容によってどちらが向いているか分かれるところでもありますし、単に「本を読みたい!」ということであれば、それぞれにメリットがあるので、その人が使いやすいほうを選ぶことで良いと思います。

ここまでは日常生活での読書についてのことなのですが、「学びの場」での話となるとそう簡単なことではありません。

現在、日本では国の施策としてGIGAスクール構想(全国の児童・生徒1人に1台のコンピューターと高速ネットワークを整備する文部科学省の取り組み)の実現に向けて、各自治体での様々な動きがあります。併せて「読むこと」の学習での電子デバイスやICTの効果的な活用を考えるに

図書・紀要委員会委員長

国文学科准教授 秋山 晴人



あたって、紙媒体で読むことと電子デバイスで読むことにはどのような違いがあるのかといった研究も行われています。その研究で明らかになってきたことのひとつに以下のような内容があります。

「電子デバイスを用いて読むということには、電子デバイスそのものが持つ特徴により、視覚によって文章を読むという行為以外の視覚的処理が必要となる。更に、読む行為に付随する身体動作が制約される。その結果として、読むことや読んで思考することに注力しにくい状況を生む可能性がある。」つまり、電子デバイスによる読書は、紙の本による読書のように「目で読む」「読んだことをメモする」などの行為のほかに、タップ、スライド、スワイプなど、機器の操作にも気配りしなければならず、その分本を読むことの集中力が削がれやすくなるということです。

先に述べたように、電子書籍の市場は今後ますます拡大していくことは間違いありません。同時に電子デバイスの飛躍的な進歩もあるでしょう。私は上に挙げた課題の解決のためにも、学校での学びの場において更に研究が深められ、これまでよりも一層学習効果の上がる電子デバイスの利用法や、もうすでに研究が進められている電子デバイスと紙媒体の融合によるハイブリッドな教育機器などの開発を大いに期待しているところです。

令和4年度の図書館

令和4年度 蔵書数(令和5年3月31日現在)

合 計	和 書	洋 書	視聴覚
85,490冊	77,458冊	6,899冊	1,133点

和書1,203冊、洋書1冊、視聴覚資料1点を新たに受け入れ、令和5年3月31日までの蔵書数は上記のようになった。

和書の内訳は、固定資産図書45,641冊、教育研究図書31,817冊。洋書は、固定資産図書5,420冊、教育研究図書1,479冊。視聴覚資料は、固定資産189点、簿

外944点となった。

また、年度末に5年間所在が不明である紛失図書や複本、書庫狭隘化のため不要となった図書318冊を除籍した。

私たちの読むヨム

『きっかけ』

国文学科1年 斉藤 愛唯

近年読書離れが進んでいると言われているが、本当にそうなのかと考える。

全国学校図書館協議会による「第67回学校読書調査(2022年)」では、5月1か月間の平均読書冊数が小学生(4～6年)では13.2冊となり増加傾向にある。中学生(1～3年)では4.7冊で小学生と比べると少なく前年よりも減っているが、過去の調査結果から見るとこちらも増加傾向にある。不読者(5月1か月間に読んだ本が0冊回答者)数を見ると小学生は6.4%、中学生は18.6%となっている。

では、高校生はどうだろうか。先ほどの「第67回学校読書調査」では、5月1か月間の平均読書冊数が高校生は1.8冊となり過去の調査結果を見ても横ばいとなっている。一方、不読者数は51.1%にもなり、小・中学生との差は歴然である。また全国大学生協連による「第57回学生生活実態調査 概要報告(2021年)」によると、1日の読書時間(電子書籍も含む)が「0分」と答えた学生の割合は50.5%である。前年から3.3ポイント増加したとはいえ、高校生・大学生の読書離れは少なくとも小・中学生と比べると進んでいると言わざるを得ない。

読書に関してはこのような状況であるが、私の友人には「小学生の時は本を読んでいたが学年が進むに

つれ、読まなくなってしまった。だけど、大学生になり参考資料を読むようになってから本を読みたいと思うようになった」という人もいる。

本を好きになるきっかけは人によって違うと考える。小説から入る人もいれば、参考資料や図鑑、絵本から入る人もいるであろう。どのようなきっかけであったとしても、自らの世界を豊かにしてくれる『本』という存在に積極的に触れて欲しいと思う。

あなたが本を読みたいと思う、本を好きになるきっかけは実は身近にあるかもしれない。



本学に所蔵していない本を読みたいときは、次の方法があります。詳しくは職員までお尋ねください。

①購入希望(リクエスト)を提出する

本学学生・教職員に限りリクエストを受け付けております。ただし、すべての本が入るわけではありませんので、ご了承ください。また、入るまでに時間がかかることがあります。

②他館から取り寄せる

道立図書館などから取り寄せて借りることができます。

③公共図書館・大学図書館に行く

学生証・身分証明書・紹介状などが必要となる場合があります。



図書館で過ごした時間を経て

総合教養学科2年 加藤 尚之

「図書館」とは私にとってどのような場所なのか。このことを改めて考えることになったこの機会に図書館との関係について振り返ってみたいと思います。

私の幼少期には両親がよく絵本を読み聞かせてくれました。中でも特に『ぐりとぐら』や『はらぺこあおむし』が印象に残っています。

私は、小学生や中学生のころ本が好きで図書委員に何度もなりました。そのため図書館に行く機会も多く、様々な本に出合う機会がありました。中でも『18歳からの格差論』や『ビリギャル』は印象深いものでありました。この2冊は私に社会と自分自身の将来を考えるきっかけを与えてくれました。

しかし、高校生になると、休み時間の減少や中学校よりも図書館の規模が小さくなったなどの理由から図書館に行く回数が減り、必然的に本を読むことが少なくなっていきました。そのころは、教科書や参考書が中心となり、朝読書以外に読書する機会はほぼなかったと思います。そのときに読んでいた本は『羊と鋼の森』です。ひとつのことに打ち込める素晴らしさが描かれている美しい小説です。

ところが、短大に入学後はその状況は変わること

になります。図書館に参考文献を探しに行った際、まず感じたことは、静かで落ち着いた雰囲気であり、私にとってとても居心地がいいものであるということです。本来図書館とはそのような場所ですが、中学生の時代以来、しばらく図書館に行く機会がなかったため、図書館のもつ良さを忘れていたように思います。

現在、私は授業がない時間帯はもとより授業前後に時間を作り図書館に頻繁に行くようにしています。授業の課題や自習をしながら、また時には息抜きのため、過去に読んだ本や自分の関心のある分野の本を探したり読んだりしています。このような時間は私にとって非常に楽しく貴重な時間でもあります。読書を通して、新しい考えに触れたり様々なものの見方を学んだりしながら、自分自身の発想をより一層柔軟にしたり視野を広げることができるようになってきていると考えます。

静かな場所が好きで私にとって、図書館で過ごす時間はかけがえのないものであり、毎日の生活にゆとりを持たせてくれます。これからも、私は読書の時間を大切にし、自分自身がより一層成長するよう努力していきたいと思います。

絵本「あつかったらぬげばいい」

幼児・児童教育学科2年 久米田 喜久子

私は何かに没頭していると、休むことを忘れがちです。友人には、「自分はまだできると思って無理をすることが多いよね」とよく指摘されます。そして気づいたら、体調を崩しています。このフレーズを読んだ時、とりあえず自分で疲れているのかの判断ができなくなった時は、余計なことは考えず、休むようにしようと強く思いました。そうすることで、自分の中で気持ちが軽くなり、休んでも良いんだと感ずることができました。

「余計なことを考えすぎだよ。起きてもしないことで疲れるのはやめにしなよ」と囁いてくれるような絵本であり、クスッと笑えて、何度も読み返したくなる絵本です。

私は、子育てサロンありすや実習で使う絵本を借りるために本学図書館を利用していました。絵本の種類はとても豊富であり、子どもたちに人気の絵本や自分が子どもの頃の懐かしの絵本があります。

絵本は幼少の頃から読んでおり、今もとても大好きです。私がオススメする絵本は、ヨシタケシンスケさんの「あつかったらぬげばいい」です。この絵本は、子どもよりも大人が読むと、色々考えさせられ、心が軽くなる絵本です。「○○だったら、○○すればいい」というフレーズが続き、見方を変えれば、自分が悩んでいることがなくなると思います。

特に私のお気に入りには、「つかれているのかどうか、よくわからなくなったら、つかれたことにすればいい」です。